重点項目７	スポーツの振興
基本的方向①	多様なスポーツ環境づくり

取組みの内容

１　生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくり

スポーツには、競技志向、健康志向、遊び志向など、多様な楽しみ方があり、生涯にわたり健康で活力のある豊かな生活を送るためにも、ライフステージに応じたスポーツ活動に取り組むことが重要である。

このため、県民だれもが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、日常的にスポーツに親しみ、またスポーツを「する」「みる」「ささえる」活動が実践できるよう、生涯スポーツの環境整備に取り組む。

令和４年度の主な取組み・実績

（１）総合型地域スポーツクラブの育成支援

- 地域のスポーツリーダーが、スポーツをめぐる地域の現状と課題を把握し、その課題解決に総合型地域スポーツクラブが果たす役割について認識を深めるための研修会を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止
- 総合型地域スポーツクラブのスキルアップを図るため、クラブが実施するスポーツ教室等に優秀な外部指導者を派遣（５クラブ、６回）
- 広域スポーツセンター専門員が市町やクラブを巡回し、クラブの設立、運営などの指導・助言
- ウェブサイトの運営やクラブ通信の発行などにより、総合型地域スポーツクラブの普及啓発・情報交換を実施

（２）スポーツに親しむ機会の提供

- 県内生涯スポーツの祭典である県民スポーツ・レクリエーション祭を開催

（スポーツ大会を県内スポーツ施設で 20 種目実施し、3,271 名が参加
（５種目が新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止）
スポレク広場・レクリエーション大会に 1,200 名が参加（３年振りに開催：11 月））

（３）地域でスポーツを支える人材の養成、活用

- 多様化する地域住民のスポーツニーズに対応できる指導者の養成のため、生涯スポーツ指導者養成講座を実施（６日間）
- 団体等の組織を適切に運営できる人材を育成するため、総合型地域スポーツクラブマネジャー養成講習会を実施（２日間）

（４）トップレベルの競技をみる機会の充実

- 令和４年度四国インターハイは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の開催であったが、応援者や観客の入場について、県の「イベント等の開催に係る留意事項」を参考に、各競技や会場の特性を踏まえ、入場定員を定め開催した。
- 県民にトップランナーを見る機会を提供するとともに、県のにぎわいづくりに貢献するため、国内外のトップランナーを招聘して、第 75 回香川丸亀国際ハーフマラソン大会を３年振りに開催した。

（５）香川県立アリーナの整備等県立スポーツ施設の充実

・　香川県立アリーナについては、令和４年４月に建設工事に着手するとともに、施設の設置根拠となる香川県立アリーナ条例を制定し、管理運営を行う指定管理者の候補者を選定

（６）障害者スポーツの振興

・　国際大会で活躍できる選手の育成・強化に向けた障害者スポーツの環境整備や人材育成を実施
・　障害者スポーツ体験会など、スポーツを通じて、障害者と健常者が交流を図り、障害者の社会参加を促進
・　全国障害者スポーツ大会（栃木大会）への選手派遣
・　県障害者スポーツ大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

≪　関連する主な事業　≫

県民スポーツ・レクリエーション祭開催事業、生涯スポーツ指導事業、四国インターハイ開催準備事業、香川丸亀国際ハーフマラソン大会開催事業、新県立体育館整備事業、障害者スポーツ普及事業

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画策定時（R2）	R4 年度実績	評価	R7 年度目標
35	成人の週1回以上のスポーツ実施率	%	54.9（R元年度）	52.5	D	65
	D 評価に関する分析	コロナ禍で様々な活動が制限や自粛された中で、スポーツや運動をする機会が減少したと考えられる。今後は、新型コロナウイルス感染症の収束とともにさまざまな活動の機会が増え、スポーツ参画人口の拡大につながるアピールや取組みが必要である。				

評価・課題

○　総合型地域スポーツクラブは、地域の住民が中心となり創設・運営されるものであることから、その人材養成と１～２年程度の準備期間が必要である。令和４年度末時点で 30 のクラブが設立されているほか、４つのクラブが設立に向けて準備中である。

○　県民スポーツ・レクリエーション祭のスポーツ大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、いくつかの種目が中止となったが、感染症対策を徹底して実施した種目においては、県民が気軽にスポーツを楽しめる機会を提供することができた。また、スポレク広場、レクリエーション大会は３年振りに開催することができた。

○　生涯スポーツ指導者養成講座には、地域で実際にスポーツ指導を行う人や、今後携わろうとする人が積極的に参加している。（公財）日本スポーツ協会の公認指導者資格制度との連携による公認資格の取得も可能であり、令和４年度の修了者は８名（累計 917 名）となった。

○　令和４年四国インターハイは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時の開催となったが、選手・監督、大会役員はもとより、観客への感染対策を徹底したことで、影響を最小限に抑え開催することができた。また、地元で開催することにより、大会に出場「する」選手だけではなく、ハイレベルな技術を「みる」、新しい競技を知ることや、役員として大会を「ささえる」ことでスポーツを身近に感じるとともに、来県した選手監督との交流も生まれ、今後のスポーツ振興につなげることができた。

○　平成 26 年９月の旧県立体育館の閉館により県立体育館がない中、競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設、交流推進施設としての機能を備える本県の中核的体育館の整備に取り組む必要がある。

今後の展開

○　総合型地域スポーツクラブは地域住民のスポーツ参画の基盤であり、その担い手も地域住民であるため、未設置の市町とも連携し、研修会等の実施により、新たなクラブの設立に向けた機運を高めるとともに、新しい資格であるコーチングアシスタントの資格取得を促し、人材を発掘・育成していく。

○　スポレク広場について、令和５年度も国立讃岐まんのう公園で開催予定である。

○　県民スポーツ・レクリエーション祭スポーツ大会については、新しい種目が実施できるようスポーツ団体に働きかけていくとともに、スポーツ大会開催に対する支援の在り方を検討する。

○　生涯スポーツの普及・発展のためには、それを支える人の育成が重要である。地域のスポーツリーダーが必要な知識と理論を体系的に学ぶことができる生涯スポーツ指導者養成講座について、引き続きスポーツ関係者に広く周知していく。

○　令和４年度四国インターハイ等全国規模のハイレベルな大会開催を契機に、大会を観戦することでスポーツを身近に感じ、生涯スポーツの振興につなげる。

○　競技スポーツ施設、生涯スポーツ施設、交流推進施設としての機能を備える本県の中核的体育館の整備を推進し、令和７年３月の開設に向けて取り組む。

重点項目７	スポーツの振興
基本的方向②	スポーツ競技力の向上

取組みの内容

１　トップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境づくり

スポーツの国際大会等での郷土選手の活躍は、県民に勇気や感動を与え、次代を担う子どもたちに夢や希望を抱かせてくれるものであり、将来のトップアスリートをめざして、子どもたちが自らの能力を最大限に伸ばそうと努力することは、たいへん意義がある。

そこで、全国大会や国際大会において活躍できるトップアスリートをめざし、競技力を高めることができる環境整備に取り組む。

令和４年度の主な取組み・実績

（１）ジュニア期からのタレント発掘、育成

- 豊かなスポーツの素質を持つ小学校４・５年生を毎年発掘し、小学校卒業までの間、月２回程度、４～６年生３学年を対象に行うスーパー讃岐っ子育成プログラムを実施（計 53 回）
- 小学校３・４年生の希望する児童を対象に、未普及競技の体験教室を含むスポーツ体験プログラムを実施（計４回、80 名）　※雨天のため１回中止
- 中学生県選抜チーム（団体競技）の県外遠征を支援
- 中学校に部活動の少ない競技で、競技団体が運営するクラブの立ち上げを継続的に活動支援
- 中学校、高校の運動部を充実、活性化させることを目的として、県中学・高校体育連盟を通じて、県外遠征や強化合宿等さまざまな強化事業を実施
- 専門的に競技を始める中学生年代の強化を図るため、中学生の県代表クラス選手を選抜し、競技団体による練習会等を計画的・継続的に実施

（２）トップアスリート育成のための支援

- 国体正式競技である 41 競技の選手強化を図るため、県外遠征や強化合宿及び選手、指導者のレベルアップを目的とした優秀コーチ招聘等を実施
- 日本代表候補選手等の強化のために県内での合宿等への支援を実施
- 将来国際舞台で活躍できるアスリートを育成するため、オリンピック種目に取り組む将来性豊かな中・高校生を指定して個別に強化
- ジュニア選手・指導者の育成を目的として、オリンピック選手等トップアスリートによるスポーツ教室や講演を開催
- 競技団体に専任コーチ等を配置し、選手の競技力向上や指導システム・カリキュラムの点検・向上を実施

（３）指導者の養成および資質の向上

- 指導者の育成と資質向上のために、研修会を実施

（４）スポーツ医・科学に基づいた競技力向上のための支援

- （公財）香川県スポーツ協会と連携し、各競技毎にスポーツドクターを配置し、健康やコンディションの管理、指導を実施

≪　関連する主な事業　≫

羽ばたけトップアスリート育成事業

香川県教育基本計画に掲げている指標の現状と評価

番号	指標	単位	教育基本計画 策定時（R2）	R4 年度 実績	評価	R7 年度 目標
36	オリンピック大会に出場した本県関係の選手数	人	2 （過去5大会の平均）	－	－	3 （R6年度）
37	国民体育大会男女総合成績	位	31 （H27～R元年度の平均）	36位	D	20 位台
	D 評価に関する分析	3年ぶりに国民体育大会が実施された。新型コロナウイルス感染症による行動制限により、十分な強化事業が実施できなかったことなどが要因であると考える。本県の競技力水準の維持・向上を図るため、継続的な強化・支援を行っていく。				

評価・課題

○　かがわジュニア育成プランから育った本県出身選手が全国大会で活躍するなど、成果が上がっている。

○　第 77 回国民体育大会は３年振りに開催され、目標の 20 位台には届かなかった。

○　個々の特性を生かし、発育・発達段階に応じて、一貫した指導理念に基づく指導を行う一貫指導システムが構築された競技クラブの維持・継続が重要である。

今後の展開

○　短期的には有望競技の重点強化により、中長期的にはジュニア選手の発掘・育成に努めるなど、本県の競技力水準の維持・向上を図るため、継続的な強化・支援を行う。

○　国体に向けた強化事業等により育った本県出身選手が、さらにオリンピックなどの国際大会に出場・活躍できるよう、引き続き、トップアスリートの育成支援を継続していく。

○　各競技団体や日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）、日本スポーツ振興センター（ＪＳＣ）などの中央団体とも連携を図り、ジュニアからトップアスリートに至るまで、アスリート発掘・育成強化事業をはじめとする総合的な競技力向上対策事業をさらに推進していく。